

## 2011 年度 小委員会活動成果報告

(2012 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	視環境評価小委員会		主 査 名：明石行生 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)		委員長名：佐土原 聡 主 査 名：佐藤 仁人
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本小委員会は、安全・快適・健康な視環境を維持しながらシステムのエネルギー変換効率を高めるために、これらの側面から視環境を構成するシステム効率を定量的に測定する技術の構築と実用化を支援することを目的とする。</li> <li>・本年度は、特に、各 WG の目標達成に向けた WG の積極的な推進と WG 活動の進捗と妥当性の確認のための議論を行うことを目的とした。</li> </ul>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	明石行生 (福井大学)、秋月有紀 (富山大学)、井上容子 (奈良女子大学)、岩田三千子 (摂南大学)、奥田紫乃 (同志社女子大学)、加藤美佳 (関西大学→建築研究所)、佐藤隆二 (大阪工業大学)、土井正 (大阪市立大学)、中村芳樹 (東京工業大学)、原直也 (関大大学)、北村薫子 (武庫川女子大学)		
設置 WG (WG 名：目的)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薄明視測光技術の実環境への適用 WG (WG1)：薄明視測光技術 (国際照明委員会などで理論は確立済み) を実環境に応用する際の適用範囲を明確にする。それを道路・街路の光環境設計に応用する方法を紹介する。研究成果を学術論文として投稿する。</li> <li>2. 複雑な輝度分布をもつ視野における対象物の見え方の定量化 WG (WG2)：複雑な輝度分布の視野における順応状態をモデル化する。そのモデルにより複雑な輝度分布の視野上の対象物の視認性、明るさ、グレアを定量的に評価する技術を開発する。評価技術を実務者にもわかりやすい形で表現する方法を確立する。</li> <li>3. 明視環境設計 WG (WG3)：視環境設計のための資料として、加齢効果を含む、個人の視覚特性を考慮した文章の読みやすさと明視 3 要素との関係を整備する。</li> </ol>		
2011 年度予算	62,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (第 1 回 5 月 13 日 (金)、第 2 回 11 月 18 日 (金)、第 3 回 3 月 14 日 (水))
刊行物 (シンポジウム資料等除)	なし
講習会	1. 実施していない
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 実施していない
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	1. 実施していない
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 計画通り、各 WG において、実験・討議など実質的な活動を進めた。</li> <li>2. 来年度に開催するシンポジウムの計画を立案した。</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	1. 特にない